

# ホテルDXの実証実験のための「タップホスピタリティラボ 沖縄」開設

ホテル・旅館専門の  
経営総合エンジニアリング会社(株)タップ

沖縄県うるま市洲崎 14-27 ☎098-901-6381  
info-thl@tap-ic.co.jp



同時に30台のロボットを充電できるロボットステーション



客室38を擁したタップホスピタリティラボ 沖縄

## ホテルDXに挑む 壮大な実証実験施設

ホテル専門のソリューションベンダーのタップが、満を持して沖縄にテクノロジを利活用した実証実験施設「タップホスピタリティラボ 沖縄」(THL)を6月30日に開設した。THLはタップが創り上げた宿泊DX実証実験施設のことだ。沖縄県が情報通信関連産業の拠点作りを目指す「沖縄IT津梁パーク」の一角に約8,400㎡の敷地に、地上7階建て、延べ床面積5,400㎡の建物を完成させている。客室は617階の二フロアで計38室を擁し、他フロアには多目的ホールやカフェ、そしてタップ沖縄事務所と本社林悦男氏がけん引するホスピタリティサービス工学研究所が入る。このTHLは、IT企業が作り上げた施設としては画期的なコンセプトを打ち出している。すでに同社はPM S会社から「ホ



現タップ代表取締役会長兼社長 林悦男氏

テル・旅館専門の総合エンジニアリング会社」に進化させていく事を明言していたが、その構想を具現化したのだ。

THLでは、宿泊施設の次世代モデルケースを実証実験、宿泊業界の生産性向上、宿泊経営の高度化、旅行者の利便性促進、地域創生を向上させた観光・宿泊人材育成セミナー、人間とロボットの共生による業務効率の向上等を挑戦課題として見据えている。

ホテルDXに関しては、(1)フットエアのDX(2)ロボット等メカ導入のDX(3)建築・設備のDX、以上のカテゴリーに沿って産業界からは60社が「THLアライアンス」として参画。さらに沖縄観光コンベンションビューローや、琉球大学、沖縄高専との連携も視野に入られ、「産官学」を推進しつつある。また、SDGs 13項目にも対応し、全ての人が能力を高め、社会的に取り残されないよう障害者とロボットの共生も図っていく。加えて、地域住民のためにラストリゾートとしてうるま市と大規模災害の地域防災協定も締結するに至っている。

先のホテルDXの3テーマはTHL内に設けた「ホスピタリティサービス工学研究所」が



生体認証でドア開錠のテクノロジも実験

軸になって課題解決に挑んでいるが、ホスピタリティサービスとテクノロジが融合した新しいホテルの形を世界に先駆けて確立し、日本のホテル産業を輸出産業にしていこうという壮大な構想を組み立てている。その可能性を徹底追求しているから、ロボットや生体認証、キャッシュレス、また宿泊施設の建築と設備の最適化等もデジタル技術を駆使して、実際的な実験と研究を進めているのだ。こうした実証実験活みの新しい製品、新しいサービスをホテル・旅館業界に提案している。こうしている。

林氏が表明していた、「マイホテル・マイオペレーション」という考え方もすでに一部の業態で実現している。同社が発信する旗印の下に様々な技術やマインドが集積し、その動向が宿泊業界にイノベーションを喚起していく事は間違いないだろう。